

## 黙示録

アミール・ツアルファティ

-黙示録理解の混乱がもたらすものとは-

<https://youtu.be/E6uHpmDrfws>

シャローム、皆さん。アミール・ツアルファティです。今回の特別な教えは、本当にずっと思いの中にあったものです。コロナウィルスの流行と、世界中の危機や恐怖、不安など、現在起こっている様々なことに照らし合わせて、それから、たしかに世界中の多くの人々が言っていることを見ても、「これは世界の終わりのようだ」。いま見ているのは、黙示録のような光景です。世界で最も賑わう都市の通りに誰もいなかったり、バチカンのサンピエトロ大聖堂のエリアは、完全に空っぽ。エルサレムの嘆きの壁もガラガラで、メッカのカアバ全体を見れば、ふだんは何万人もの人で埋め尽くされている場所が、完全に空っぽです。これは驚異的なものです。世界の指導者たちが、コロナウィルスに感染しています。英国の首相や、チャールズ皇太子が陽性反応を示しています。もちろんスペインやカナダの首相、大統領の妻たち、それから世界のセレブなど。驚愕です。私たちは、前代未聞の時代を目の当たりにしています。私は、私たちがこうして話している間にも、いままさに歴史が書かれている、と多くの人に言ってきました。しかし、その歴史のページは、ある人にとっては何らかの意味があるのかもしれませんが。もしかしたら数週間後、数ヶ月後、もしかすると数年後、それはよく分かりませんが、しかし、ひとつだけ確かなことがあります。この惑星の未来に関わる歴史のページは、すでに2000年前に書かれています。驚異的な、特別な、信じられないような驚くべき啓示が、イエスご自身によって使徒ヨハネに直接与えられたのです。あきらかに御使いが来て、イエスの啓示を与えたのです。イエスご自身が、2000年前に与えられた啓示です。さて、議論はあるでしょう。このヨハネは誰だ？それは、いつ書かれたのか？いくつかの教えの流派があるのも知っています。そこで、これからこの書を見ていきますが、まずは、祈りから始めましょう。それから、黙示録に飛び込みましょう。

父よ、あなたの御言葉に心から感謝します。あなたの御言葉は真実です。いま、あなたの真理によって、私たちが聖別してください。父よ、あなたに感謝します。あなたは、終わりのことを初めから告げ、まだなされていないことを昔から告げ、「わたしのはかりごとは成就し、わたしの望むことをすべて成し遂げる」と言われます。また、父よ、あなたの恵みによって、あなたのご計画を、あなたの子どもたちに明らかにしてください。感謝します。ですから父よ。私たちがあなたの御言葉を見てゆく時間、あなたが、私たちに理解の霊を与えてくださるように。そして、あなたの御言葉の不思議を理解するために、私たちの心の目を開いてください。あなたに感謝し、あなたを祝福します。

イエスの御名において。

アーメン、アーメン。

あらためて、皆さんありがとうございました。もう一度言いますが、はじめにお伝えしたとおり、世界中で起こっているコロナウィルスの流行は、実際、190カ国以上の国の多くの人々が、基本的に外出禁止で、現在、みんな家に閉じこもっていて、これは世界が経験したことのないものです。それが世界中の非常に多くの人々が、自問自答するきっかけになると信じています。“これは、世界の終わりなのか？”“これが人類の終わりなのか？”もちろん、このような伝染病があることは、誰もが知っています。これよりも悪いウィルスが、この惑星にやって来ました。残念ながら、地球は汚染されています。しかし、それは必ずしも大気汚染や二酸化炭素排出によるものではなく、ほとんどが罪によるものです。罪がこの世に入って以来、完全な世界はもはや存在せず、洪水の後、いま、私たちは全く異なる生態系を持っています。それは不幸にも、病気やウィルスのような多くのことを許し、それから自然災害が襲っています。だから間違いなく、いま私たちが目にしているもののほとんどは、罪のせいなのです。しかし…、神を驚かせるものは何もありません。事実、それだけではありません。私たちは黙示録を通して、神が完全に支配していることがわかります。彼は全知全能、遍在です。ですから黙示録は、間違いなく神ご自身が、驚くべき権威を私たちに示しています。

さて、正直に申し上げると、黙示録を教える決心は、私にとって簡単なことではありませんでした。なぜなら、これは私自身が信者になりたての頃、非常に長い間、悩んだ書ですから。そして、私は信者としての人生の大半を、それから遠ざかっていました。世界中の多くのクリスチャンが、そうだと思います。この本は怖くて、幻想的というか、ほぼファンタジー寸前のように、怖いことが多すぎて、変な本にしか聞こえない。それに、非常にたくさんの象徴的なもの、不気味なものがたくさんあって、多くの人が思うのです。「とにかく離れていよう。黙示録を学び、勉強し、知らなくても生きていける。」私が心を痛めているのは、これは聖書全所の中で唯一、聖書の六十六巻の中で唯一、この書だけに、神がこう言われるのです。“この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを心に留める人々は幸いである。”つまり、黙示録を教える者と学ぶ者には、祝福が約束されているのです。黙示録は、ただ映画で見る本ではなく、これは、聞いて、読まなければならない書です。そして、ここに書かれていることを実行しなければなりません。最後の最後に、彼が実際に私たちに何を望んでおられるのかが分かります。しかし、ポイントは非常にシンプルです。これは、非常に珍しい書です。ほとんどの場合、私たちがこの書を学ぶことを、サタンは非常に嫌います。これはサタン自身の終わりも含めて、すべての終わりを記録した書です。自分の敗北を認めたい人は、ひとりもいません。誰も、それを告げる話は発表されたくないでしょうし、間違ったカラーで描写されたくはないでしょう。信者が神の御言葉を勉強しないことで、唯一得をするのは、サタン自身だと私は心底思います。この特定の書を勉強しないキリスト教徒の話です。皆さんに理解してほしいのは、黙示録は、たぶん私たちに与えられた、話の終わりの唯一の記録です。神のみこころだけでなく、神のご計画の全貌が分かる、唯一の記録です。聖書に「はじめに」とあるように、始まりがあったのです。そして、すべての始まりには終わりがあります。長い間、人々は自問自答していました。“終わりはいつ来るのか？” 弟子たちもイエスに尋ねました。“この時代の終わりは いつですか？” つまり、彼らは、すべての始まりには、終わりがあることを知っていたのです。イエスはルカ21章とマタイ24章で、そのことを詳しく説明して、来るべきしるしを語られました。それから見てください。そのようなことでさえ、まだ終わりではないとおっしゃったのです。ほんの始まりだ、と。そして彼は続けて、もっと多くのことを話されました。黙示録だけが、実際、それについて詳細に述べているのです。ですから、非常に面白いです。

では、この書が書かれたタイミングについて、少しお話ししましょう。もちろん、あなたにこの書を読ませないようにするサタンの働きの一つは、「この書は関係ない」と、あなたに言うことです。「それは無関係だ。」「したがって、それを読む必要はない。」ところで、聖書の中で私たちには無関係な書がひとつでもあるなら、見せてください。そんなものはありません。そうでなければ、聖霊がそこから削除していたでしょう。しかし、“プレテリスト”と呼ばれる人々の運動があって、彼らは、黙示録は西暦70年に完全に成就したと信じています。エルサレムがローマに略奪された時に。ちなみに、そのためにこの書は、その年よりも前に書かれているはずだと、彼らは信じています。西暦66年から70年の間のどこかで書かれているはずだ、と。ところで、それはほとんど不可能です。なぜなら、当時、信者のほとんどがエルサレムから逃げ出していて、彼らはエルサレムで何が起きているのか、全く知りませんでした。実際、彼らがエルサレムに戻ったのは、ローマに対するユダヤ人の大反乱の出来事後です。そして、ユダヤ人の反乱と敗北の余波の中で、ある者は戻って来たが、多くの者は一度も戻らなかった。おそらく、ヨハネもその一人だったでしょう。

もうひとつの疑問は、「そうか。西暦70年以前に書かれたのではなく、70年の出来事を語っていないのであれば…」ところで、それは明らかです。70年には、火の池はありませんでした。千年王国をもたらしていないし、そして、信じられないようなことを実行する世界的指導者はいませんでした。死から復活したり、これらはすべて未来のものです。それは過去のものではありません。しかし、もうひとつは、教会の創始者たちの記述からです。この書は、特定の世界の支配者の時代に書かれていたことが分かっています。そしてそれは、西暦95年か96年のどちらかにしか当てはまりません。1世紀の終わりに向けて。ちなみに、これはパウロの記述にも当てはまります。いずれも、1世紀のごく後半に書かれたものです。ですから、パウロはテサロニケの信徒への手紙を書いた時、教会の携挙がすでに起こったとは、一瞬たりとも考えませんでした。実際には、もう起こったとは思わないように、と励ましました。彼の時代、信者たちが考えた、そのような世界的な出来事はまだ起こっていないと言いました。だから、彼はもちろん「それが、もうすぐ起こる」と励ましていました。「気落ちするな！」と。ですから、私たちは、これはおおよそ西暦95~96年頃

に書かれたと信じています。エルサレムが破壊され、神殿が破壊されたずっと後です。ユダヤ人はエルサレムに戻りましたが、しかし、確かに神殿もなく、いけにえの儀式もありませんでした。ユダヤ教は、その間、奔走していました。サンヘドリンの場所を求め、神殿なしで神を礼拝する方法を求めて。簡単なことではありませんでした。しかし黙示録の中には、間違いなく、第一神殿が破壊される前の出来事については、言及されていません。実際の反乱について、言及はありません。そして、破壊そのものについての言及は、確実にありません。もし、その特定の時期以前に書かれていたとしたら、言及されていたでしょう。もちろん、それは大きな事ですから。しかし、これが書かれたのは、はるか後のことで、もはやそれは疑問でも問題でもありませんでした。

では、エルサレムでの出来事だけでなく、世界の出来事に移りましょう。さて、またある人たちは言います。この書の筆者は、パトモス島に追放されていたエペソの教会の長老だったのかもしれない。はっきり言っておきますが、それもまた、私は事実ではないと思っています。なぜなら、誰かの文章を吟味するとき、いま読んでいる、その人の文章だけを吟味するのではなく、実際には、別の場所に書かれている同一人物の文章も調べます。他の手紙、他の書。そして興味深いことに、ヨハネの福音書で、ヨハネが非常に“しるし”に興味を持っていたことが分かります。そして、7という数字は、彼にとってとても大切でした。そしてヨハネの福音書は、1章19節から12章まで、「しるしの書」として知られています。つまり水をぶどう酒に変えたり、役人の息子の癒やし、ベテスダの池での麻痺した男の癒やし。5千人に食べさせ、水の上を歩き、生まれつきの盲人を癒やし、ラザロを死者の中からよみがえらせた。これらはイエスがメシアであり、人ではないことを示すための7つのしるしです。彼はインマヌエルであり、神が私たちと共におられることの。それが、とても面白いです。あきらかに見ての通り、数字の7や、しるし、奇蹟や裁きの問題は、あきらかに、後に同じ黙示録の中で出て来ます。7つの封印、7つのラッパ、7つの鉢が見えます。確実に同じ人物が、同じ文体で、同じように書いています。だから、これが使徒ヨハネである事は間違いありません。ひとつ確かなことは…、覚えていますか？教会は、預言者と使徒の土台の上に建てられました。すべての預言者、すべての使徒は、その生きている間に、イエスが来ることを予測しているか。あるいは、彼がすでに来られた時に生きていて、彼を見、復活したイエスに直面しているかのどちらかです。ヨハネがそうであったように。あるいは、復活したイエスが定期的に現れたか。使徒パウロの場合のように、何年もかけて直接教えることもありました。これが、使徒ヨハネである事は間違いありません。間違いなく1世紀末のことです。さきほども言いましたが、この書には、読者に特別な約束があります。黙示録1章3節から読んでいます。

**この預言のことばを朗読する者と、それを聞いて、そこに書かれていることを心に留める人々は幸いです。時が近づいているからである。（黙示録1章3節）**

ここには祝福がありますが、その条件は何ですか？それを守ることです。まず、もし悪魔が、あなたにその書を読むなと言うなら、あなたがこの書を読んで理解し、それらのことを行うことから来る祝福を奪っています。面白いことに、これはイエス・キリストの啓示です。

**イエス・キリストの黙示。これは、すぐに起こるはずの事をそのしもべたちに示すため、神がキリストにお与えになったものである。（黙示録1章1節）**

ですから、面白いのが、後になって、イエスは、これは人々と分かち合うために与えられたものだと理解しています。マタイ11章25節から27節に書いてあります。

そのとき、イエスはこう言われた。「天地の主であられる父よ。あなたをほめたたえます。これらのことを、賢い者や知恵のある者には隠して、幼子たちに現してくださいました。そうです、父よ。これがみこころにかなったことでした。すべてのものが、わたしの父から、わたしに渡されています。それで、父のほかには、子を知る者がなく、子と、子が父を知らせようと心に定めた人のほかは、だれも父を知る者がありません。（マタイ11章25節から27節）

この啓示は、イエスがご自身を啓示するために選択されたものです。御使いを通して与えられた、イエスからの啓示。ヨハネに対して、彼と父の事を、特別な形で明らかにされたのです。だから、黙示録1章2節には、こう書かれているのです。

**ヨハネは、神のことばとイエス・キリストのあかし、すなわち、彼の見たすべての事をあかしした。  
(黙示録1章2節)**

ヨハネは、彼が書いた事を見たのです。彼は、証を書き、神のみことばの証言をしなければならなかった。いいですか。黙示録は、聖書のどの書にも矛盾するはずがありません。それは、ありえない。黙示録は、何でしたか？「神のことばとイエス・キリストのあかし」です。ですから、この書は、この書の何が好きかという、これはまるで『バック・トゥ・ザ・フューチャー』のような感じです。神は、その恵みによって…、神はすべてをご存じです。彼は、最初から終わりの事をご存じです。覚えていてください。神はすべてをご存じで、私たちはすべてを知りません。しかし神は、私たちに見せてくださったのです。それも、“起こるかもしれない”こと、“起こる可能性のある”ことではなく、これから起こる事を。神は、すでにご存じです。テープの中に巻かれたフィルムのような感じです。神は、すでにすべてをご存じで、今、神は映画の終わりを私たちに見せてくださっているのです。私たちは、まだそこまで行っていません。しかし私たちは、その書を通して、何を期待すべきかを知っています。その書を通して、何が起こるのかを知っています。これから起こる事を知っている事の力は、好奇心を静めるだけではなく、うわさ話や「オレの方が君よりよく知っている」ということが目的でもありません。聖書は何を言っているのか？“そこに書かれている事を心に留めよ”と言っています。つまり、これから起こる事があり、私たちが、ここで見るものがある。私たちが上から見るものがある。ヨハネは、あらゆる面で、この私たちを代表しています。そして、私たちが心に留めておかなければならないものがあり、そして、いま、私たちがしなければならないことがあります。これらすべてのご起こるまでの間に。非常に興味深いです。この書は超重要です。この書は、本当に多くの恵みを与えてくれます。繰り返しになりますが、この御言葉を読んで心に留めるだけで、あなたはすでに祝福されるのです。しかし、この書を通して、この非常に邪悪な世界で、信者はどうなるのかを見ます。そして、これらの言葉は、私たちに励ますためだけに語られているのであって、落胆させるために語られているではありません。皆さんは、書の描写全体を通して見るでしょう。これは、彼らと私たちです。なぜなら、私たちは、この世のものではありませんから。この書の言葉は読むためだけではなく、実施することを意図されています。私たちが、それを理解するのはとても重要なことです。聖書は、時が近いことをはっきりと示しています。もちろん、多くの人は思っているでしょう。「ヨハネは、これを2000年前に書いて、その多くはまだ起きていないのに、どうして近いと言えるんだ？」まず第一に、『主の御前では、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。』第2ペテロ3章8節が告げています。

**神は、その約束のことを遅らせておられるのではありません。かえって、あなたがたに対して忍耐深くあられるのであって、ひとりでも滅びることを望まず、すべての人が悔い改めに進むことを望んでおられるのです。（第2ペテロ3章9節）**

神が遅れているわけではありません。悔い改める時間を与えてくださっているのです。人々に、もう一度チャンスを与えておられるのです。

ところで、このコロナウィルスの危機は、多くの人にとって大きなチャンスです。自分たちの人生を再評価し、自分たちの基準を再評価し、自分たちの時間を再評価して、また、自問自答するのです。彼らは、神とどのような関係を持っているのか？仮に、彼らに神との関係があればの話ですが。あきらかに…、誰もが理

解し、誰もが同意するでしょうが、神はこの流行を止めることができます。黙示録に出て来る人たちが、どんな行動を取るかと言えば、神には、来る多くの裁きを止めることが出来ることを知っていながら、それでも神に止めてくださいと頼まない。では、何の時が近いのでしょうか？裁きの時。見てください。

**人間には、一度死ぬことと死後にさばきを受けることが定まっている。(ヘブル9章27節)**

裁きというのは、すでにヨブ記から知られていることです。ヨブ記は、最も古い書物の一つとして知られていますが、聖書の創世記から黙示録までの全体を通して、裁きが来る。そして、裁きの時は近い。裁きの時が来ます。私たちは、主が正しい裁判官であることを知っています。私たちは、主が決して不義の裁きを下されないことを知っています。私たちが何をしようと、ほかの人が何を得るのを見ようと、私たちが目にするものは何であれ、それは神の裁きの表れ、正義の審判の表れです。超重要です。私たちが知っているとおりに、引き止めるものが取り除かれ、それから神の御怒りが、この邪悪な世界に注がれます。そして、皆に話を伝える時が来ました。誰にも隠されていません。それが黙示録の本質です。話を伝え、誰にも何も隠さない。繰り返しになりますが、この書は「彼らと私たち」であることを覚えておいてください。この書に書かれていることの多くは、必ずしも私たちのための、私たちに関するものではありません。しかし、私たちが知っておくべきことです。そうでなければ、彼は書かなかったでしょう。なぜなら、あきらかに誰がそれを読んでいるのか？その書は誰が勉強しているのか？信者でなければ、誰がこの書で祝福されるのか？しかし神は、私たちが理解することを望んでいます。神は、世界で何が起きているかをご存じで、それは、どんどん悪化していくことをご存じです。しかし彼はまもなく、それに対処されます。私たちは、これを握りしめるのです。イエスは約束どおり、よみがえられました！彼は、約束どおり、私たちを連れて行ってくださいます。彼は、約束どおり、私たちと一緒にエルサレムに戻ってきます。約束されたとおりに、彼は世界を治めます。そして、彼は約束どおり、世界を裁かれます。

では、黙示録を見てみましょう。繰り返しますが、22章。第1章から始めますが、基本的には舞台裏を見ることとなります。世界の出来事を、真に掌握しているのは誰なのか、ここに垣間見ることが出来ます。もちろん、自分こそが、アレフとタヴ、アルファとオメガであることを証明される、イエス・キリストご自身です。彼こそが、本当にそれを担っておられ、もちろん私たちは、何が起るのかを知っています。しかし、出来事に移る前に、イエスが小アジアにある七つの教会の御使いたちに、メッセージを送られたのが分かります。これは今のトルコです。それが非常に興味深い方法で、教会の状態を記述しているメッセージなのです。今日でさえ。

ということで、第2章と第3章では、まず、「イエス・キリストの信者」を自称する人たちのことを指しています。主が、彼の花嫁を天国に連れて行く前に、主は、その花嫁に伝えておられます。「花嫁」とは、どのようなものであり、自称「花嫁」はどのようなものであるか。そうして教会を整え、イエスは2章で、アジアの最初の4つの教会にメッセージを送っています。「神の家を正しくせよ」つまり、第二章の最初の4つの教会は、本当の教会ではないということです。彼らは完璧な教会ではなく、彼らのすることすべてにおいて、主を喜ばせていない。その「神の家」には、たくさん問題がある。エペソの教会があり、スミルナの教会、テアテラの教会があつて、それからサルデス、フィラデルフィヤ、そしてラオデキヤ。

もともとヨハネの出身地であるエペソでは、彼は、彼らが初めの愛から離れたことを知っていました。彼らは、彼らの愛を失っていました。実際、イエスは、多くの点でエペソの教会をほめています。しかし、彼らに愛がないことに、彼の心は打ちひしがれています。ただ、そこには愛がなかったのです。

スミルナの教会は…、今日のトルコ、イズミルです。教会自体が、多くの迫害を受けていたことが分かります。そしてイエスは、自己犠牲の美しさを、彼らに伝えようとしています。もう一度言いますが、彼らの信仰に対する迫害です。そして、イエスはこれらの男女に語りかけ、彼らに思い起こさせています。彼は、いかなる苦しみよりも偉大であり、死よりも大きい。ウォ！これは誰もが聞くべきメッセージですね。今の時代でも、今日でさえも。

ペルガモの教会に対しては…、皆さんは理解しなければなりません。ペルガモは、トルコにあった非常に邪悪な場所でした。1世紀、グレコ・ローマの都市には、ゼウスのための祭壇と、ルシファー、サタン自身の

ための祭壇があったのです。実際、それは「サタンの座」として知られていたことが分かっています。イエスは、それに言及しています。皆さんは思うでしょう。サタンの座がある街といえば、イエスの教会やすべてに対して、激しい迫害があると思うでしょう。でも信じられないかもしれませんが、ペルガモでは、そうではありませんでした。もちろん、非常に残忍な形で殉教した人がいたことも知っています。しかし全体的に、ペルガモの街を、イエスはこう呼んでいます。サタンの座があっただけでなく、その教会に対するサタンの戦術は、迫害よりもはるかに効果的であったことが分かります。彼は、教会を内部から墮落させようとしてきました。ちなみに、これは世界中で見かけます。今日でも、そうです。邪悪な場所で、外から教会を攻撃する必要はありません。ただ、邪悪な教義を教える邪悪な教師を、内部に連れてくるだけで十分です。そうすれば、教会はなくなります。あっという間に。

また、テアテラの教会でも、ここでイエスが倫理基準を、彼らに語っておられます。イエスは、テアテラの教会に怒りを表しています。鉄の杖を持って土の器を打ち砕くようにして彼らを治める。

**彼は、鉄の杖を持って土の器を打ち砕くようにして彼らを治める。わたし自身が父から支配の権威を受けているのと同じである。（黙示録2章27節）**

彼は、彼らに悔い改める機会を与え、しかも、もし彼らがその恵みを拒むなら、彼は迅速な裁きに臨むと言われます。ウォ！言い換えれば、イエスは、すべてのものが邪悪で間違った形で行われている教会を、確実に見つけられます。そして、イエスは言われています。

「わたしはあなたがたに悔い改める時間を与えているのだ。あなたがたに悔い改める時間を与えているところが？裁きは、神の家から始まります。

次に、興味深いのは、第3章で見る教会です。最後の3つの教会。サルデスの教会、フィラデルフィアの教会、ラオデキヤの教会。サルデスはもちろん、生きてるとされているが、実は死んでいる教会であることが分かります。サルデスの教会の評判は、生き生きとして、活気に満ち、霊に満たされ、神の働きに開かれた、神の御言葉に従順な教会である。しかしイエスはこの教会を見て、より深い現実をご覧になりました。教会は、たぶんテアテラの教会ほどは、邪悪で不道徳ではなかったかもしれませんが、それは死んでいて、キリストに無反応だった。それはまた、別の危険性で、私たちが教会で行うことが、自動的になってしまいます。私たちは、もう神の御霊の声には耳を傾けず、私たちは、神が私たちに言われることに自分の耳を傾けず、ただ儀式に従う人間になってしまいます。ちなみに、それが宗教的な人々の定義です。イスラエルの民は、長い間、神の神殿で礼拝をしていて、神の御霊が神殿から出たことさえ知らなかったのです。エゼキエルの8章から9章、10章、最終的には11章まで、神が、それ以上は我慢ならなかったことが分かります。一方では、彼らが来て、彼らのすべての犠牲を行い、しかし、その一方で、彼らは太陽そのものを含む、ほかの神々を崇拜しています。そして私たちの知っているとおり、その教会では、彼らは死んでいて、キリストに無反応だったのです。

そして、次に私たち全員が、常に比較されることを願う教会です。フィラデルフィアの教会。兄弟愛という意味のフィラデルフィア、信仰が見られる教会でした。聖書によれば、この教会は、フィラデルフィアの街が扉となって、ギリシャの言語と文化が、周辺地域に広がっていたのです。だから、そこは、とても大切な場所でした。そして彼が彼らに書いた手紙の中で、フィラデルフィアに、イエス・キリストの福音のための新しい機会の扉が大きく開いていたのが分かります。一見弱そうな小さな集団と、その場所にいる影響力のないキリスト教徒たちに対して、大きく開かれていたのです。つまり、見てください。弱くて影響力のないキリスト教徒の小さな集団です。それが、開いているドアを使うという課題が与えられています。彼らは、私たちと同じように、非常に小さなキリスト教徒の集団です。もしかしたら、今の私たちのように、今までで一番大きな扉を与えられているのかもしれませんが。今日、オンラインで話す人たちは、誰でも、世界中の何百人もの家に届くことができます。つぎは、それを受けて私たちは何をするのか、です。ところで、この教会にイエスは言われました。

わたしも、地上に住む者たちを試みるために、全世界に来ようとしている試練の時には（から）、あなたを守ろう。（黙示録3章10節）

アウトオブ（時から）「ek」。言い換えれば、彼は、そこから私たちを“連れ出す”のであって、私たちに、そこを“通らせる”のではありません。私たちは、出て行くのです。

それから、もちろんラオデキヤ教会です。これは残念ながら、現代でも、多くの教会を描いています。基本的に、イエスの胸を悪くする教会。イエスは、ラオデキヤのこの教会は、ぬるま湯だと言われています。冷たくも熱くもない。この手紙の中で、イエスはこの教会に、現実を見ろと言われます。彼ら自身の状態と、彼らの周囲の世界の状態について。つまり、第2章と第3章で、すでに私たちに見えてくるのは、基本的に今日の教会の状態の予測です。

しかし、第4章で非常に興味深いことが起こります。第4章の冒頭です。イエスが教会の霊的、文化的な状態に言及された後、今日の教会に容易に反映することが出来ます。見ての通り、空が開き、ラッパの音とともに声がします。空が開いて、ラッパの音がしたのです。覚えていますか？第1コリント15章と第1テサロニケ4章から、私たちがすでに知っているとおりに、素晴らしい事が起こります。聖書は告げています。

…声と言った。「ここに上れ。…」（黙示録4章1節）

ヨハネは携挙され、天に上げられます。「ラプトウロ」昔あった事、今ある事、この後に起こる事を見て知り、書きしるすために。ということで、第4章から第20章まで、非常に興味深い形で、教会のことは、もはや言及されていません。つまり第3章までは、地上の教会のことを聞いているのです。私たちは、それらの教会に神が語られたことを聞いている。しかし4章1節から、ほぼ20節まで、教会は地上にいません。教会は、地上で起こる出来事の中で言及されておらず、描写すらされていません。それを理解することが超重要です。なぜなら、これが、教会の携挙は大患難の前に起こると私や他の多くの人が信じる主な理由のひとつだからです。なぜなら、次に来るのは7つの封印と、7つのラッパと、7つの鉢ですから。これらは、この世に降りかかる大患難です。

5章では、ヨハネが立っていて、今、彼は天国にいます。すべてが新しく、彼はそんなものを見たことがありません。彼は長老たちを見ていて、御使いたちを見ている。しかし彼は巻物を見て、その巻物には封印がある。そして、その巻物は誰も開けることが出来ません。その巻物は重要な情報源です。これから起こることの情報と、希望と未来と約束もです。ユダ族の獅子であり、屠られた小羊である方だけが7つの封印を開き、地上に裁きをもたらす権限を持っています。

皆さん、それでは第6章に移ります。災難の始まりを見ると、神が巻き物の7つの封印をひとつずつ開くことによって、裁きをもたらします。それは、あまりにもひどく、7章では、すでに神の恵みによる証を見るほどです。14万4000人の、ユダヤ人ビリー・グラハムの言及があり、彼らは、この大患難の期間に、悔い改めるように人々に呼びかけます。その結果、多くの大患難時代の聖徒が生まれます。それは教会ではありません。イスラエルの12部族のうち、14万4000人が、取り残された世に悔い改めを呼びかけ、そこから、人が救われるのです。そして、彼らには「大患難時代の聖徒」という新しい名前がついています。

第8章では、生態系の災害を見えています。もし私たちが地球温暖化や気候変動や、そういったすべてが何か深刻なことだと考えるなら、待っててください。いや、待ってはいけません。しかしもし、黙示録8章が成就される最中に、あなたがここにいるなら、最初の4つのトランペットで、神が生態系の災害を起こされるのを、あなたは見るでしょう。

続いて、第9章では、最後の3つのラッパが鳴った時に、人間のホロコーストが起こります。神は生態系を守られますが、しかし、地上の不信心で邪悪な人々に、とてつもない苦しみをもたらします。地球上の、邪悪で不信仰な人たち。

第10章は、ほろ苦い瞬間を与えています。ヨハネが小さな巻き物を取って食べると、巻き物は、彼の口の中では蜂蜜のように甘いですが、しかし、来るべき裁きのしるしのために、彼の腹の中で苦くなります。

それは第11章を見れば分かります。エルサレムでは説教と地震が同時に起こります。それは奇蹟的な力を持った2人の証人から伝えられ、大衆は彼らの死を望んでいる。そして神は、奈落の底からの獣が、彼ら（2人の証人）を殺すことを許されるが、3日後、彼らは、まさにイエスのように死の中からよみがえります。そして、まさにイエスのように彼らは天に昇ってゆくのです。大地震で、都の10分の1が壊滅します。ウォ！これは、本当にものすごいことになるでしょう。

次に、第12章を見てください。全世界で起こっているすべての出来事とともに、神は、彼がイスラエルに対して行うことの言及を忘れていません。天に興味深い“しるし”がでます。それから、もちろんヨハネが見ているのは、女と子と竜です。竜がサタンであることを、私たちは知っています。そして彼は、子をむさぼり食おうとしています。この「子」とは、イスラエルの国から出たイエスです。もちろん、イエスは天に引き上げられます。イエスご自身が、天に昇ったのです。その間、女であるイスラエルは、荒野で3年半、守られます。ですから、それは過去のイスラエルの保護を語っています。そしてもちろん、2000年たった今も、私たちは生きています。しかし、それはまた、国家としてのイスラエルが荒野の中で守られる、非常に具体的な日数を語っています。もちろん、荒野は、この2000年の間、国土から追放されていた事とも言えます。しかし、この文脈での荒野は、特定の砂漠、文字通りの砂漠です。なぜなら、1260日という文字通りの数がありますから。これは聖書的に、正確に3.5年です。私たちは皆、ダニエル9章を覚えていますが、反キリストが台頭して“契約を固める”時、英語で言うと、

**彼は一週の間、多くの者と堅い契約を結び、半週の間、いけにえとささげ物とをやめさせる。  
(ダニエル9章27節)**

もちろん、それはダニエル書の11章と12章にも、再び出て来ます。ひと時と、ふた時と、半時で、3年半。ということで、イスラエルは荒野で3年半、守られることが分かります。これは7年間の裁きの後半の話です。イスラエルは、反キリストにだまされるだけでなく、今、彼らは目を覚まし、彼は神ではないことを理解しました。これは、私たちのためではありません。「我々はだまされていた！」そして逃げ出し、もちろん神が彼らを守られます。なぜなら、彼らはまだ終わっていませんから。神は、彼らを見放していません。

13章では、2匹の獣が出て来ることが分かっています。仮に、獣が反キリストのしるしなら、ある意味、2人の反キリストです。1人は、どちらかという政治的なもので、新しい。もう1人は、以前からいた者で、陸から出ます。2匹の獣が登場し、1人は海から、もう1人は地から出ます。前者は反キリストであり、後者は偽預言者。しかし、実際には彼らは反キリスト1と2です。なぜなら、1人が海から来るまでは、すでに地球上に存在しているものがありますから。つまり、世が世界統一宗教に向かっているという話です。その宗教の指導者が法王であろうとなかろうと…、これは私の推測ですが、もしくは、そのリーダーになりそうな人物、彼は、世界に降りかかる大災害から抜け出すために登場する、信仰の政治的指導者のために、ある意味で道を用意します。そして面白いのが、その直後にも、まだ、14万4000人のユダヤ人伝道者が再び登場するのです。今回のみ、彼らは「初穂」として神にささげられています。つまりこれは、大患難の最中に、爆発的な伝道があるということです。その結果、多くの大患難聖徒が生まれ、その多くが殉教することになります。今、信者でいることが大変だと思えば、その考えにお別れした方がよい。その時には、信者になるというのは、おそらく、頭を失い、あなたの体から頭が切り離されることを意味します。

第15章では、新鮮な一時停止をもたらしてくれます。この章では、それまでに起こり、またこれから起こるすべての裁きの中から、賛美が繰り返されています。しかし、その後、聖書全体の中で、そして、もちろん黙示録の中で、最も悲しく悲劇的な章の1つが来ます。



第16章では、最後の裁きのセットである、鉢の裁きについて語っています。そして気づきます。ところで、地球の生態系と人類の肉体が、絶望的な破壊を受けます。第6の鉢の裁きは、世界の王たちをエルサレムに対する戦いに呼び集めます。これはもちろん、「ハルマゲドン」という言葉が、最初に、また、新約聖書全体の中で唯一言及されている箇所です。「ハル・メギド」。でもその前に覚えていてください。読んでいくと、世界に降りかかる災いが見えてきます。そして、人々は、それを送ったのが神であることを知っているのが分かります。彼らはそれを認めています。そして、彼には、それを止める力があることも。それでも彼らは主を認めず、彼に栄光を帰すのではなく、実際、彼らは、彼を冒瀆したのです。それほどまでに霊的に盲目になり、これほどまでにサタンに洗脳されるのです。それが神だと知っていて、神は止めることが出来ると知っている人たちが、悔い改めることすら出来ず、彼らは、実際に神の御名を冒瀆します。彼らは、見事に悪魔の霊に満たされるのです。もちろん、それが原因で、ハルマゲドンの谷に大集合が起こり、もちろん、大戦争が、その60マイル（96.56km）南のエルサレムで起こります。彼らはエルサレムに進軍するために、エズレルの谷に集合します。このように、封印から始まり、ラッパ、そして鉢へと移っていく様子を見ることが出来ます。黙示録6章の封印、黙示録8、9、11章のラッパ、そして黙示録15、16章に出て来る鉢、それは、反キリストの偽りの平和、戦争、飢饉、死で始まります。その死で、世界の人口の4分の1が滅びます。地と天が揺れ、14万4000人に証印が押され、もちろん、彼らは後に行動します。天に静寂があり、そして、8章、9章、11章で、7つのラッパが鳴り始める。木や草の3分の1が破壊され、海の生物と船の3分の1が破壊され、川の水の3分の1が毒に侵され、太陽・月・星の3分の1が暗くなる。1つめの災いは、悪魔のようなイナゴが出て来ます。それは基本的に、イナゴに似た悪魔です。そして第2の災いは火と硫黄で、残った人のうち、3分の1が死亡します。その後、2人の預言者が説教をして、奇跡を起こし、そして、キリストの治世が予見されます。そして、もちろん黙示録15、16章では、最後の7つの鉢が腫瘍をもたらし、すべての海の生物が破壊され、すべての水が毒される。灼熱の太陽は文字通り、人々を大きな苦しみに陥れます。深い闇に、反抗的な人類は、さきほど言ったように、神を呪います。ユーフラテス川は干上がり、ハルマゲドンから始まり、エルサレムへと向かう戦いが始まる。そして世界的な地震。バビロンは滅ぼされ、そして巨大な雹が降る。

皆さん、その進行を見てください。私たちが見ているのは…こんなことを言う理由は、いまのこのコロナウィルス？こんなものは比べものになりません。前ぶれにもなっていません。何でもないです。仮に、これで人々が恐怖に陥っているなら、この大災害が起こる時、人々がどう感じるか想像できますか？だからこそ聖書は、こう告げているのだと思います。人々はノアの時代のように生き、嫁いだりめとったり、商売をしている。ノアの時代は大患難の時代の記述ではありません。それらは、今の時代の記述です。このパンデミックは過ぎ去り、人々は昔のやり方に戻るでしょう。そして人々は戻り、おそらくさらに悪くなるでしょう。彼らはきっと、「カーブ・ディエム」と言うでしょう。「今日を生きろ！」そして、何でも好き放題するでしょう。しかし、その後、本当の大患難が襲うと、黙示録にある記述は、とても鮮やかです。特に第6章の後半の節では、

天は、巻き物が巻かれるように消えてなくなり、すべての山や島がその場所から移された。地上の王、高官、千人隊長、金持ち、勇者、あらゆる奴隷と自由人が、洞穴と山の岩間に隠れ、山や岩に向かってこう言った。「私たちに上へ倒れかかって、御座にある方の御顔と小羊の怒りとから、私たちをかくまってくれ。御怒りの大いなる日が来たのだ。だれがそれに耐えられよう。」（黙示録6章14節から17節）

それは、大患難の中での人々の様子の実際の描写です。

第17章は、世界的な宗教の崩壊、その宗教が長持ちすると思っていたなら、かつて政治経済界を牛耳っていた宗教体系は、世界的な支配下で崩壊する。

第18章は、世界経済の破綻。あなたがもし、今、市場が下落して悲惨なことになっていて、終わったと思っているなら、違います。神は政治経済システムを1時間で破壊します。今は、そうではありません。今、私たちが見ているものは、またしても前ぶれです。そして我々は、かなり違ったものを目にします。

第19章は、惑星地球の差し押さえ。主イエスが帰ってきて、地球を差し押さえます。もはや地球の王たちに、力はありません。王の王、主の主が来られます。第19章は、すばらしい章です。

そして第20章で、地球が新しい管理下に入ります。皆さん。いったん、サタンが底なしの穴に落とされると千年王国が始まり、地球は新たな管理下に置かれます。しかし、その時代の終わりに、縛られていたサタンが、再び諸国を欺くために解放されます。それは、彼の終わりでもあります。なぜなら、彼は世界の四隅から、新たなゴグとマゴグのために彼らと呼び集め、そして神が火を送り、永遠に彼を滅ぼしますから。第20章。サタン、我々は、お前の末路を知っている。

第21章と第22章では、振り出しに戻り、皆さん。古い天と地は、解決不可能なほどに汚されたことを認識した上で、神は製図板に戻り、新しい天と地と、新しいエルサレムを設計し、創造される。

そして第22章。準備はいいですか？この最終章では、ご自身の民の元に戻るといふ、主の約束をふり返っています。ある意味では、最終章は、私たちが私たちの時代、私たちの現実に引き戻してくれます。そして、緊急性、預言、神の愛、信者への希望を語っています。罪の報酬は死であり、もちろん私たちにとって、賜物は永遠の命です。そして、もちろん22章、

「見よ。わたしはすぐに来る。わたしはそれぞれのしわざに応じて報いるために、わたしの報いを携えて来る。わたしはアルファであり、オメガである。最初であり、最後である。初めであり、終わりである。」自分の着物を洗って、いのちの木の實を食べる権利を与えられ、門を通過して都にはいれるようになる者は、幸いである。犬ども、魔術を行う者、不品行の者、人殺し、偶像を拝む者、好んで偽りを行う者はみな、外に出される。「わたし、イエスは御使いを遣わして、諸教会について、これらのことをあなたがたにあかした。（黙示録22章12節から16節）

イエスはヨハネに言うおられます。「わたしは、御使いを遣わして、これらのことをあなたがたにあかした」そうすることで、そう言うことで、彼は私たちにも話しかけているのです。「…諸教会について、これらのことをあなたがたにあかした。」これらは、信者に対する証言です。未信者が黙示録を読んで、深く感銘を受けることを期待してはいけません。「…御使いを遣わして、“諸教会について”、これらのことをあなたがたにあかした。」と主は言われます。

「…私はダビデの根、また子孫、輝く明けの明星である。」“御霊も花嫁も言う。…”

これから何が起こるのかを、私たちが知っていることの結果として、イエスは言うおられるのです。

“御霊も花嫁も言う。「来てください。」これを聞く者は、「来てください。」と言いなさい。”

「御霊と花嫁」私たちは花嫁であり、御霊は私たちの内におられます。私たちは、彼が来て私たちを連れて行ってくださるのを、熱心に待つ必要があります。私たちは、「来てください！」と言わなくてはなりません。ちなみに、主に来てほしいと思うのは敗北ではありません。実際、私たちは、ずっとそうあるべきです。入隊して数週間の頃、私は、とても落ち込んでいたのを覚えています。もう、そこに1分たりともいたくなくて、本当につらくて、本当に厳しくて、よく覚えています。毎晩、自分のシフトで警備しながら、私は文字通り、イエスに戻って来てください、と願っていました。私にとっては、それが慰めでした。1つ、何か私に頼れるものがあるとすれば、また1つ、私が願うものがあるとすれば、それは彼が戻ってきてくれることだけでした。私が昔よく歌っていた歌があって、イエシュア、メレヒ・ハ・イエフディム（ユダヤ人の王）。戻って来てください。

渇く者は来なさい。いのちの水がほしい者は、それをただで受けなさい。私は、この書の預言のことばを聞くすべての者にあかしする。

イエスが言っていることを見てください。

私は、この書の預言のことばを聞くすべての者にあかしする。もし、これにつけ加える者があれば、神はこの書に書いてある災害をその人に加えられる。

言い換えれば、もし今、人々がそれを変え始めたら、その人たちは取り残され、そして彼らは、この書に書かれていることを経験する。そして、彼は言います。

また、この預言の書のことばを少しでも取り除く者があれば、神は、この書に書いてあるいのちの木と聖なる都から、その人の受ける分を取り除かれる。(黙示録22章17節から19節)

もし、あなたがこのメッセージを変えているのであれば、あなたは不信者です。あなたがこのメッセージを変えているなら、あなたは救われていません。いのちの書に、あなたの名はない。永遠の命を手に入れることは出来ません。それくらい、この書はイエスにとって重要なのです。それだけ、私たち全員にとっても重要であるべきです。そして、聖なる都からも。あなたは、永遠の命を生きることは出来ません。

神は、この書に書いてあるいのちの木と聖なる都から、その人の受ける分を取り除かれる。

イエスが、こんなふうと言っている場面は、どこにもありません。「ほかにも言いたいことがある。あなたに後で理解してもらおう」いいえ。「この書に書かれていることすべて」だと彼は言います。皆さんを励ましたいと思います。

神は、実に、そのひとり子をお与えになったほどに、世を愛された。それは御子を信じる者が、ひとりとして滅びることなく、永遠のいのちを持つためである。(ヨハネ3章16節)

そして、もちろん21節まで。

神が御子を世に遣わされたのは、世をさばくためではなく、御子によって世が救われるためである。御子を信じる者はさばかれぬ。信じない者は神のひとり子の御名を信じなかったため、すでにさばかれている。

罪が、私たちに死刑に渡すのです。キリストへの信仰だけが、私たちに死刑囚の陣営から、死刑囚でない陣営へと連れて行くのです。もし、あなたがまだ悔い改めておらず、まだ不信者であるなら、あなたは、すでに死刑囚の陣営に入っています。彼らは、すでに裁かれています。なぜなら、神のひとり子の御名を信じていないから。

そのさばきというのは、こうである。光が世に来ているのに、人々は光よりもやみを愛した。その行いが悪かったからである。

驚きです。

悪いことをする者は光を憎み、その行いが明るみに出されることを恐れて、光のほうに来ない。しかし、真理を行う者は、光のほうに来る。その行いが神にあってなされたことが明らかにされるためである。  
(ヨハネ3章16節から21節)

ヨハネの黙示録22章20節で締めくくります。

これらのことをあかしする方がこう言われる。「しかり。わたしはすぐに来る。」アーメン。主イエスよ、来てください。（黙示録22章20節）

あなたに感謝します。この御言葉を勉強することが、私たちとあなたにとってどれほど大切か。それによって私たちは、あなたとの約束に励まされます。私たちは、これらのひどい目に遭わなくて済むことに感謝します。私たちは理解しています。こういった災い、この書の裁きは私たちのためではありません。この書の終わり方ですら、誰かが追加したり、奪ったり、変更したりする者がある、と告げています。それが、ここに残され、これらを経験する人たちです。もしこの書を軽視している人がいたら、もしこの書を信じていない人がいたら、父よ、この黙示録の教えが、できる限り遠くへ届いて、信者の心を祝福し、そして、未信者の心を説得しますように。あなたに感謝し、あなたを祝福します。  
イエスの御名において。

アーメン

アーメン

ありがとうございます。God bless you !

このメッセージをシェアしてください。



メッセージ by Amir Tsarfati / Behold Israel :<http://beholdisrael.org/>

ビホールドイスラエル 日本語 YouTube チャンネル

<https://www.youtube.com/channel/UCLcuvC6Mr63AqwiiXDkwRVQ>

2020.04.16